

資 料 編

「生物多様性国家戦略2012-2020」と大分県の基本方針

| 5つの基本戦略 *概ね2020年度までの重点施策 「生物多様性国家戦略2012-2020」 | | 愛知目標 | 国 | | | |
|---|--|-------|---|---|--------|--|
| | | | 戦略目標 | 国別目標 | 主要行動目標 | |
| 1 | 生物多様性を社会に浸透させる | 1~4 | A 生物多様性の根本原因に対処 | A-1 「生物多様性の社会における主流化」の達成 | A-1-1 | 生物多様性の広報・教育・普及啓発等の充実・強化 |
| | | | | | A-1-2 | 生物多様性等の経済的な評価などによる可視化の取組の推進 |
| | | | | | A-1-3 | 地方自治体における生物多様性地域戦略の策定や実践的な取組の促進、2013年までに生物多様性地域戦略の策定の手引きの改定 |
| | | | | | A-1-4 | 生物多様性への配慮事項が盛り込まれた国・地方自治体の戦略・計画等の策定の促進、奨励措置による生物多様性への影響の考慮、生物多様性に配慮した奨励措置の実施 |
| | | | | | A-1-5 | 持続可能な事業活動のための方針の設定・公表とその実施の奨励 |
| 2 | 地域における人と自然の関係を見直し、再構築する | 5 | B 生態系を悪化させる人為的圧力等の最小化に向けた取組を進め、持続可能な利用を推進 | B-1 自然生息地の損失速度及びその劣化・分断の顕著な減少 | B-1-1 | 2014年又は2015年初頭に予定されている愛知目標の中間評価までに損失速度や劣化・分断の状況把握のための手法、ベースラインの確立等 |
| | | | | | B-1-2 | 2020年までに生息地の劣化・分類の減少のための取組の実施等 |
| | | | | | B-1-3 | 2015年までに鳥獣保護法の施行状況の見直しの実施等 |
| | | | | | B-1-4 | 鳥獣による農作物被害対策や森林被害対策の推進等 |
| | | 6-7 | | B-2 生物多様性の保全を確保した農林水産業の持続的な実施 | B-2-1 | 持続的な農業生産の維持や生産基盤の管理といった生産関連活動と生物多様性の保全を両立させる取組の促進 |
| | | | | | B-2-2 | 森林の多面的機能の持続的発揮、森林のモニタリング調査の推進等 |
| | | | | | B-2-3 | 持続的な漁業と生物多様性の保全を両立させる取組の促進等 |
| | | | | | B-2-4 | 自然と共生した里海づくりの取組の実施 |
| | | 8 | | B-3 窒素やリン等による汚染状況の改善、水生生物等の保全と生産性の向上、水質と生息環境の維持等 | B-3-1 | 流域からの栄養塩類・有機汚濁物質の削減、2015年3月までに第7次水質総量削減の実施 |
| | | | | | B-3-2 | 2014年までに水生生物の保全のための下層DO及び水生植物の保全のための透明度についての環境基準化の検討等 |
| | | | | | B-3-3 | 生息環境を維持するための管理方策の確立に向けた調査研究の実施 |
| | | 9 | | B-4 外来生物法の施行状況の検討結果を踏まえた侵略的外来生物の特定、定着経路情報の整備、防除の優先度の整理、防除の計画的推進等 | B-4-1 | 2014年までに侵略的外来種リストの作成、定着経路の情報整備等 |
| | | | | | B-4-2 | 2014年までに防除の優先度の考え方の整理、計画的な防除等の推進、「外来種被害防止行動計画(仮称)」の策定 |
| B-4-3 | 優先度の高い侵略的外来種の制御・根絶、これらの取組を通じた希少種の生息状況や本来の生態系の回復の促進 | | | | | |
| 10 | B-5 人為的圧力等の最小化に向けた取組の推進 | B-5-1 | 2013年までにサンゴ礁、藻場、干潟、島嶼、亜高山・高山地域等の気候変動に脆弱な生態系に対する人為的圧力等の特定、2015年までに人為的圧力等の生態学的許容値の設定と許容値達成のための取組の実施 | | | |
| | | C-1-1 | 2014年又は2015年初頭に予定されている愛知目標の中間評価までに保全・管理の状況把握のための手法、ベースライン、現状の整理 | | | |
| | | C-1-2 | 生物多様性の保全に寄与する地域の指定についての検討と保全・管理の推進 | | | |
| 2 | 森・里・川・海のつながりを確保する | 11 | C 生態系、種、遺伝子の多様性を保全することによる生物多様性の状況の改善 | C-1 陸域等の17%、海域等の10%の適切な保全・管理 | C-1-3 | 広域レベルにおける生態系ネットワークの方策の検討とその形成の推進等 |
| | | | | | C-1-4 | 2014年までに重要海域の抽出、保全の必要性及び方法の検討 |
| | | | | | C-2-1 | 絶滅危惧種に係る知見の集積、レッドリストの整備と定期的な見直し等 |
| | | | | | C-2-2 | 国内希少野生動植物の指定、保護増殖の取組の推進等 |
| | | 12-13 | | C-2 絶滅危惧種の絶滅防止と作物、家畜等の遺伝子の多様性の維持等 | C-2-3 | 絶滅危惧種の絶滅・減少の防止のための生息・生育環境の整備の推進等 |
| | | | | | C-2-4 | トキ、ツシマヤマネコ等の生息域外保全や野生復帰の推進等 |
| | | | | | C-2-5 | 植物遺伝資源保全に関する保全ネットワークの構築等 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

：達成済の目標

| 県 | |
|--|--|
| 基本方針 (「5つの基本戦略」に対応) | 主な取組 |
| 豊かな生物多様性が人の暮らしを支えていることを理解する ～教育、広報、普及啓発を強化する～ | 4 1 (5) 優れた自然環境に関する情報の広報の強化 |
| | 4 6 (1) 生物多様性の広報・普及啓発等の充実・強化 |
| | 4 6 (2) 学校・地域・職場等における環境教育の推進 |
| | 4 6 (2) 地域で環境教育に取り組む人材の育成 |
| | 5 2 (4) 県及び市町村における計画の策定及びその実践 |
| 生物多様性と人のつながりを考え行動する ～日々の暮らしや産業と生物多様性の調和を図る～ | 4 2 (1) 特に保全すべき地域の保全方針等を参考にした生態系ネットワークの維持・形成の取組 |
| | 4 2 (3) 環境影響評価制度等による生態系ネットワークの維持・形成への適切な配慮 |
| | 4 2 (4) 県の公共事業においては、計画地周辺の希少種などへの影響の回避、代替措置等の配慮 |
| | 4 4 (2) 有害鳥獣の個体数の調整等、計画的な保護管理の推進 |
| | 4 3 食料生産と生物多様性が両立する取組の促進 |
| | 4 3 耕作放棄地の発生防止や農業用水利施設の維持・保全の推進 |
| | 4 3 生物多様性の保全に配慮した水産資源の回復及び時速的な利用の推進 |
| | 4 4 (1) 適切な保育・間伐による森林の公益的機能の強化 |
| | 4 3 生産現場における効率的施肥や農業の適正使用の徹底 |
| | 4 3 無給餌で環境負荷の少ない海藻・貝類養殖の推進 |
| | 4 4 河川、湖沼、沿岸海域の継続した水質監視 |
| | 4 5 (3) 国外及び国内外来種の生息・生育状況の把握 |
| | 4 5 (3) 自然公園をはじめとする生物多様性情重要な地域における防除の推進 |
| | 4 5 (3) 大分県版外来種リストの作成及び防除の必要性の啓発 |
| 4 8 地球環境jの変化に伴う生態系の保全に係る具体的方針、手法等の情報収集 | |
| 生態系のつながりを大切に 豊かな自然が残る地域や生きものを守る ～重要な地域、生態系、種を保全する～ | 4 1 自然公園、自然環境保全地域等における豊かな自然環境の保全 |
| | 4 1 希少野生動植物の生息・生育地等、保全の必要性が高い地域の情報収集 |
| | 4 1 (4) 日本ジオパーク、ユネスコエコパーク等の取組の推進による自然環境の保全 |
| | 4 1 (5) 法令等による規制のない地域における保全すべき地域の選定及び保全策等の検討 |
| | 4 5 (1) 希少野生動植物保護条例に基づく種の指定による種及び生息・生育地の保護等の推進 |
| | 4 5 (1) NPOとの協働等による絶滅危惧種の定期的な調査及び保護の充実強化 |
| | 4 5 (1) レッドリストの機動的な更新及びレッドデータブックの改定 |
| | 4 5 (1) 自然環境保全地域、鳥獣保護区等、野生動植物の生息・生育地の保全につながる地域の適切な指定 |
| | 4 5 (1) 絶滅危惧種のモニタリング及び保護管理体制の充実強化 |

| 5つの基本戦略 *概ね2020年度までの重点施策 「生物多様性国家戦略2012-2020」 | | 愛知目標 | 国 | | | | |
|---|--------------------|-------|------|--|--|---|-------------------------------------|
| | | | 戦略目標 | 国別目標 | 主要行動目標 | | |
| 4 | 地球規模の視野を持って行動する | 14 | D | 生物多様性及び生態系サービスから得られる恩恵の強化 | D-1 生態系の保全と回復を通じた生物多様性・生態系サービスから得られる恩恵の国内外における強化等 | D-1-1 | 持続的な森林経営の確立、多様で健全な森林の整備・保全の推進等 |
| | | | | | | D-1-2 | 農業の持続的な営みを通じた農村環境の保全・利用と地域資源の活用等 |
| | | | | | | D-1-3 | SATOYAMAイニシアティブの国内外における推進 |
| | | | | | | D-1-4 | 2013年までの三陸復興国立公園の指定、海岸防災林の復旧・再生の推進等 |
| | | | | | | D-1-5 | 自然と共生した里海づくりの取組の実施 |
| | | | | | | D-1-6 | 生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)を活用した新たな施策展開の検討 |
| | | 15 | D-2 | 劣化した生態系の15%以上の回復等による気候変動の緩和と適応への貢献 | D-2-1 | 2014年又は2015年の初頭に予定されている愛知目標の中間評価までに、生態系の保全・回復の状況把握のための手法、ベースラインの確立等 | |
| | | | | | D-2-2 | 生態系の保全と回復対策の推進による気候変動の緩和と適応対策の推進 | |
| | | | | | D-2-3 | 森林施業の適切な実施等の森林吸収源対策の推進、緑の回廊の設定等 | |
| | | 16 | D-3 | 名古屋議定書の締結と国内措置の実施 | D-3-1 | 可能な限り早期に名古屋議定書を締結、遅くとも2015年までに遺伝資源の利用を監視するためのチェックポイントの設置・普及啓発等の実施による名古屋議定書の義務の着実な実施 | |
| | | | | | D-3-2 | 地球環境ファシリティー(GEF)や名古屋議定書実施基金等を通じた議定書の締結を目指す途上国への支援の促進 | |
| | | | | | | | |
| 5 | 科学的基盤を強化し、政策に結びつける | 17 | E | E-1 生物多様性国家戦略に基づく施策の推進等 | E-1-1 | 必要に応じ2015年から2016年にかけて生物多様性国家戦略の見直しの実施 | |
| | | | | | E-1-2 | 地球環境ファシリティー(GEF)や生物多様性日本基金等を活用した世界全体での個別目標17の達成への貢献 | |
| | | 18～20 | E-2 | 伝統的知識等の尊重、科学的基盤の強化、科学と政策の結びつきの強化、愛知目標の達成に向けた必要な資源(資金、人的資源、技術等)の効果的・効率的動員 | E-2-1 | 伝統的生活文化の知恵や資源利用技術の再評価、継承・活用の促進 | |
| | | | | | E-2-2 | 自然環境データの充実、継続的な更新・速報性の向上等 | |
| | | | | | E-2-3 | 海洋生物・生態系に関する科学的知見の充実 | |
| | | | | | E-2-4 | 生物多様性に関する総合的な評価の実施、わが国の国別目標の中間評価 | |
| | | | | | E-2-5 | 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間プラットフォーム(IPBES)への積極的な参加・貢献、国内体制の整備 | |
| | | | | | E-2-6 | わが国における資源動員状況の把握及び生物多様性条約事務局への報告体制の整備 | |
| | | | | | | | |

| 県 | |
|---|--|
| 基本方針 （「5つの基本戦略」に対応） | 主な取組 |
| <p>生物多様性をもたらす恵みをより豊かにする ～生物多様性の回復を図る～</p> | 4 1 (4) 日本ジオパーク、ユネスコエコパークを活用した取組の推進 |
| | 4 3 農山漁村の持つ多面的機能の維持・再生 |
| | 4 3 水源かん養保安林等の適正な管理による保安林機能の質的向上の推進 |
| | 4 4 (1) 森林の公益的機能の維持・増進 |
| | 4 4 (2) 里地里山と生物多様性の保全に係る啓発及び鎮守の森等豊かな自然が守られた地域の保全 |
| | 4 4 (4) 生態系に配慮し、親水機能を考慮したうるおいのある海辺空間の創出 |
| | 4 8 「大分県地球温暖化対策実行計画(第4期)」に基づく地球温暖化対策の推進 |
| | 4 8 二酸化炭素の吸収源対策としての森林の適正な管理 |
| | 4 8 生態系の保全に係る適応策やその具体的方針等に関する情報の収集 |
| | — — |
| <p>豊かな生物多様性を未来につなぐ ～科学的根拠に基づき行動する～</p> | 5 2 (4) 「第2次生物多様性おいた県戦略(2016-2020)」の総合的かつ計画的な推進 |
| | 5 2 (4) 市町村における地域戦略の策定等の支援 |
| | 4 1 (4) 日本ジオパーク、世界農業遺産地域等における文化や技術等の資源の活用 |
| | 4 7 (1) 生物多様性の活用、保全のための科学的データの収集 |
| | 4 7 (1) 日本ジオパーク、ユネスコエコパークの取組に向けた学術調査の実施 |
| | 4 7 (1) レッドデータブックの改定に向けた野生動植物の生息・生育状況の調査の実施 |
| | 4 7 (2) 環境GISを活用した情報の蓄積及び提供 |
| | 4 7 (2) 貴重な自然史標本の散逸、損傷等の防止の推進 |

生物多様性指標

| 戦略 | 指標項目 | 単位 | 現状(基準) H26 | 目標 H32 | 施策項目 | |
|-----|----------------------|----|----------------|----------------|------------------------------|------------------------------------|
| 1 | 自然公園指導員の委嘱数 | 人 | 78 | 79 | 1 重要地域の保全 | (1)-1自然公園 |
| 2 | 景観行政団体(累計) | 団体 | 13 | 18 | 1 重要地域の保全 | (3)-1景観保全 |
| 3 | 国・県指定文化財数(累計) | 件 | 894 | 925 | 1 重要地域の保全 | (3)-2~4景観保全、 天然記念物、名勝、 文化的景観 |
| 4 | ジオガイドの活動回数 | 回 | 14 | 132 | 1 重要地域の保全 | (4)日本ジオパーク、ユ ネスコエコパーク等 |
| 5 | 指定希少野生動植物の指定種数(累計) | 種 | 21 | 27 | 2 生態系ネットワークの維持・形成 | (2)自然環境保全と 土地利用 |
| 6 | 多面的機能支払交付金制度事業計画認定面積 | ha | 20,514 | 25,500 | 3 農山漁村の持つ多 面的機能の維持・ 再生 | — |
| 7 | 中山間地域等直接支払制度協定締結面積 | ha | 16,065 | 16,100 | 3 農山漁村の持つ多 面的機能の維持・ 再生 | — |
| 8 | 化学肥料の使用量 | t | 4,666 (H25) | 4,466 (H31) | 3 農山漁村の持つ多 面的機能の維持・ 再生 | — |
| 9 | 農薬の使用量 | t | 1,248 (H25) | 1,375 (H31) | 3 農山漁村の持つ多 面的機能の維持・ 再生 | — |
| 10 | 森林面積(民有林) | ha | 402 | 402 | 4 地域の特性に応じ た保全と利用 | (1)森林 |
| 11 | 間伐面積 | ha | 4,547 | 5,000 | 4 地域の特性に応じ た保全と利用 | (1)森林 |
| 12 | 森林ボランティア活動への参加者数 | 人 | 12,902 | 13,600 | 4 地域の特性に応じ た保全と利用 | (1)森林 |
| (8) | 化学肥料の使用量 (再掲) | t | 4,666 (H25) | 4,466 (H31) | 4 地域の特性に応じ た保全と利用 | (2)里地里山 |
| (9) | 農薬の使用量 (再掲) | t | 1,248 (H25) | 1,375 (H31) | 4 地域の特性に応じ た保全と利用 | (2)里地里山 |
| 13 | 河川の環境基準達成率 | % | 83.7 (H25) | 95.3 (H31) | 4 地域の特性に応じ た保全と利用 | (3)河川・湿地地域 |
| 14 | 生活排水処理率 | % | 72.3 | 81.3 | 4 地域の特性に応じ た保全と利用 | (3)河川・湿地地域 |
| 15 | 水環境保全活動団体数 | 団体 | 50 | 89 | 4 地域の特性に応じ た保全と利用 | (3)河川・湿地地域 |
| 16 | 漁場再生面積(累計) | ha | 20,975 | 32,800 | 4 地域の特性に応じ た保全と利用 | (4)沿岸・海洋 |
| 17 | 海岸清掃参加者数 | 人 | 14,128 | 32,300 | 4 地域の特性に応じ た保全と利用 | (4)沿岸・海岸 |

| 戦略 | 指標項目 | 単位 | 現状(基準) H26 | 目標 H32 | 施策項目 | |
|------|--------------------------|--------------------|----------------|----------------|------------------|------------------|
| (15) | 水環境保全活動団体数 (再掲) | 団体 | 50 | 89 | 4 地域の特性に応じた保全と利用 | (4)沿岸・海岸 |
| 18 | 一人あたりの都市公園面積 | m ² /人 | 13.1 | 13.2 | 4 地域の特性に応じた保全と利用 | (5)都市 |
| (5) | 指定希少野生動植物の指定種数(累計) | 種 | 21 | 27 | 5 野生生物の保護と管理 | (1)絶滅のおそれのある種の保存 |
| 19 | 絶滅危惧種保護活動補助団体数(累計) | 団体 | — | 15 | 5 野生生物の保護と管理 | (1)絶滅の恐れのある種の保存 |
| 20 | 鳥獣保護区特別保護地区の指定箇所数 | 箇所 | 8 | 9 | 5 野生生物の保護と管理 | (2)野生鳥獣の保護管理 |
| 21 | アライグマ防除計画確認市町村数(累計) | 市町村 | 14 | 17 | 5 野生生物の保護と管理 | (3)外来種の防除 |
| 22 | 犬・猫の引取り数 | 頭 | 3,337 | 2,211 | 5 野生生物の保護と管理 | (4)動物愛護と適正な管理 |
| 23 | 高等学校での地域と協働した環境教育の実施件数 | 件 | 51 | 80 | 6 生物多様性の主流化の推進 | (2)環境教育・学習 |
| 24 | 環境教育参加者数(累計) | 人 | 63,082 | 105,000 | 6 生物多様性の主流化の推進 | (2)環境教育・学習 |
| 25 | 公民館が実施する環境教育関係学級・講座数 | 回 | 26 | 36 | 6 生物多様性の主流化の推進 | (2)環境教育・学習 |
| 26 | グリーンツーリズム宿泊延べ人数(累計) | 人 | 23,416 | 29,300 | 6 生物多様性の主流化の推進 | (3)自然とのふれあい |
| 27 | NPOとの協働による生物多様性保全活動の実施件数 | 件 | 80 | 92 | 6 生物多様性の主流化の推進 | (5)参画と協働による保全活動 |
| 28 | 県民一斉おおいとうつくし大行動への参加者数 | 人 | 354,556 | 384,000 | 6 生物多様性の主流化の推進 | (5)参画と協働による保全活動 |
| 29 | 環境基本計画策定市町村数(累計) | 市町村 | 9 | 11 | 6 生物多様性の主流化の推進 | (5)参画と協働による保全活動 |
| 30 | 生物多様性地域戦略策定市町村数(累計) | 市町村 | 0 | 4 | 6 生物多様性の主流化の推進 | (5)参画と協働による保全活動 |
| 31 | いきものウォッチング登録件数 | 県 | 0 | 1,400 | 7 調査・情報整備の推進 | (1)調査 |
| 32 | 二酸化炭素排出量(家庭、業務、運輸部門合計) | 千t-CO ₂ | 6,843 (H24) | 6,300 (H30) | 8 地球温暖化 | — |
| 33 | エコエネルギー活用率 | % | 33 | 44 | 8 地球温暖化 | — |

自然環境学術調査実施状況

| | 年 度 | 調 査 地 区 |
|-----------|--|--|
| 広域的な調査 | 昭和44 | 大分県海中公園候補地学術調査報告書(日豊海岸国立公園候補地資料) |
| | 昭和48 | 大分県の植生 |
| | 昭和49 | 大分県の自然-現況と保護対策- |
| | 昭和49 | 自然環境調査報告(地形・地質)国東半島地域 |
| | 昭和50 | 大分県自然環境保全地域候補地調査報告書(国東半島地域の植物) |
| | 昭和51 | 祖母傾地域の自然環境保全調査報告 |
| | 昭和51 | 大分県自然環境保全地域候補地調査報告書(阿蘇くじゅう国立公園地域) |
| | 昭和52 | 大分県自然環境保全地域候補地調査報告書(玖珠地区) |
| | 昭和53 | 大分県自然環境保全地域候補地調査報告書(県南地区) |
| | 昭和54 | 大分県自然環境保全地域候補地調査報告書(県北地区) |
| | 昭和55 | 大分県自然環境保全地域候補地調査報告書(日田地区) |
| | 昭和56 | 大分県自然環境保全地域候補地調査報告書(豊肥地区) |
| | 昭和57,58 | 耶馬日田英彦山国立公園学術調査 |
| | 昭和59 | 祖母傾国立公園学術調査 |
| | 昭和60 | 日豊海岸国立公園学術調査 |
| | 昭和63 | 阿蘇くじゅう国立公園くじゅう地域学術調査 |
| | 平成19,20 | 国東半島県立自然公園自然環境学術調査 |
| 限定した地域の調査 | 昭和48 | 「西の小池」とその周辺の植生(阿蘇くじゅう国立公園) |
| | 平成 3 | 小田の池自然環境学術調査(阿蘇くじゅう国立公園) |
| | 平成 4 | 猪の瀬戸湿原自然環境学術調査(阿蘇くじゅう国立公園) |
| | 平成 5 | 蒲江町深島・屋形島・名護屋地域自然環境学術調査(日豊海岸国立公園) |
| | 平成 6 | 深耶馬地域自然環境学術調査(耶馬日田英彦山国立公園) |
| | 平成 7 | 夷耶馬・鷲巣岳地域自然環境学術調査(瀬戸内海国立公園、国東半島県立自然公園) |
| | 平成 8 | 酒呑童子山地域自然環境学術調査(津江山系県立自然公園) |
| | 平成10 | くじゅう黒岳地域自然環境学術調査(阿蘇くじゅう国立公園) |
| | 平成11 | 藤河内溪谷周辺地域自然環境学術調査(祖母傾国立公園) |
| | 平成12 | 犬ヶ岳津民川地域自然環境学術調査(耶馬日田英彦山国立公園) |
| | 平成13 | くじゅうタテ原地域自然環境学術調査(阿蘇くじゅう国立公園) |
| | 平成14 | 佐賀関町高島及び関崎周辺地域(瀬戸内海国立公園及び日豊海岸国立公園) |
| | 平成15 | 鶴見半島及び大島地域(日豊海岸国立公園・豊後水道県立自然公園) |
| | 平成18 | 坊ガツル地域自然環境学術調査(阿蘇くじゅう国立公園) |
| | 平成23 | 奥山地域植生調査(祖母傾国立公園) |
| 平成24 | 奥山地域植生調査(祖母傾国立公園、耶馬日田英彦山国立公園、国東半島県立自然公園) | |
| 平成25 | 奥山地域植生調査(祖母傾国立公園、耶馬日田英彦山国立公園、津江山系県立自然公園) | |
| 平成26 | 奥山地域植生調査(祖母傾国立公園、耶馬日田英彦山国立公園、日豊海岸国立公園) | |
| 平成27 | 奥山地域植生調査(祖母傾国立公園、耶馬日田英彦山国立公園、日豊海岸国立公園) | |

大分県文化財調査報告書一覧

| 番号 | 発行年月日 | 書名 |
|----|------------|---|
| 1 | S28. 3. 31 | 文殊仙寺の梵鐘・毘沙門天像・薬師如来像・南溟禅師塔並びに像・鑑堂古墳出土画像鏡・小鹿田焼・線彫板碑・南津留の切支丹墓・ホウライクジャク・松原山の千本カツラ・オトメクジャク |
| 2 | S29. 3. 31 | 鬼塚古墳・磨崖石塔・契沖書写大智度論抄・古要舞と古要相撲・「松原マツ」・鶴崎踊沿革考 |
| 3 | S31. 4 | 七ツ森古墳・長谷寺金銅観音菩薩立像・禅林高僧の書跡・山蔵のイチイガシ・県下の句碑 |
| 4 | S48. 11 | 傾・祖母山系におけるニホンカモシカの生息状況に関する調査報告 |
| 5 | S51. 3. 31 | 祖母山系（障子岩・大障子岳一帯）のカモシカの生息状況に関する調査報告 |
| 6 | S53. 3. 15 | 鷹ノ巣山の植物社会とフロラ |
| 7 | S55. 3. 31 | 祖母山系のニホンカモシカ生態調査中間報告（昭和54年度） |
| 8 | S56. 3. 25 | 祖母山系のニホンカモシカ生態調査中間報告Ⅱ（昭和55年度） |
| 9 | S57. 3. 31 | 名勝耶馬溪～名勝耶馬溪保存管理計画策定調査報告書～ |
| 10 | S58. 3. 31 | 祖母山系のニホンカモシカ生態調査中間報告Ⅵ |
| 11 | S59. 3. 26 | 祖母山系のニホンカモシカの生態 |
| 12 | H 1. 3. 31 | 黒岳周辺のイヌワシ-生息緊急調査報告- |
| 13 | H 1. 3. 31 | 昭和62/63年度九州山地カモシカ特別調査報告書（大分・熊本・宮崎） |
| 14 | H 5. 3. 31 | カモシカ食害調査報告書 |
| 15 | H 8. 3. 29 | カモシカ保護管理技術策定調査報告書 |
| 16 | H 8. 3. 31 | 平成6/7年度九州山地カモシカ特別調査報告書（大分・熊本・宮崎） |
| 17 | H16. 3. 31 | 平成14/15年度九州山地カモシカ特別調査報告書（大分・熊本・宮崎） |
| 18 | H23. 3. 31 | 名勝耶馬溪保存管理計画報告書 |
| 19 | H25. 3. 25 | 平成23/24年度九州山地カモシカ特別調査報告書（大分・熊本・宮崎） |

新生物多様性おおいた県戦略（仮称）策定委員会設置要綱

（目的）

第1条 大分県における生物多様性の保全及び持続可能な利用について、施策の方向性及び取組を示すための「新生物多様性おおいた県戦略（仮称）」を策定するため、「新生物多様性 おおいた県戦略（仮称）策定委員会」（以下「策定委員会」という。）を設置する。

（検討事項）

第2条 策定委員会は、次の事項を検討する。

- （1）生物多様性の現状の把握
- （2）生物多様性に係る課題の抽出
- （3）生物多様性への対応に関する基本的な考え方と主要な取組
- （4）その他策定委員会の目的を達成するために必要な事項

（構成）

第3条 策定委員会は、別表の委員により構成する。

（会議）

第4条 策定委員会に委員長及び副委員長1名を置く。

- 2 委員長は委員の互選とし、副委員長は委員長の指名とする。
- 3 委員長は、会議を進行し、会務を総括する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し委員長に事故あるときはその職務を代理する。
- 5 必要に応じ、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

（庶務）

第5条 策定委員会の庶務は、生活環境部生活環境企画課において処理する。

（会期）

第6条 策定委員会の会期は、平成28年3月31日までとする。

（雑則）

第7条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要綱は、平成27年9月30日から施行する。

新生物多様性おおいた県戦略（仮称）策定委員会委員名簿

| 氏名 | 職等 | 専門分野 | 備考 |
|-------|-------------------------|-------------------------|-----|
| 足利由紀子 | NPO法人水辺に遊ぶ会理事長 | 環境教育 | 副会長 |
| 足立高行 | NPO法人おおいた生物多様性保全センター理事長 | ほ乳類 | |
| 小田毅 | 大分県植物研究会事務局長 | 植物 | |
| 川野智美 | 九重ふるさと自然学校代表 | 環境教育 | |
| 島岡恵子 | 日本野鳥の会大分県支部会員 | 鳥類 | |
| 杉浦嘉雄 | 日本文理大学工学部教授 | 環境保全 環境教育 環境地域づくり | 会長 |
| 永野昌博 | 大分大学教育福祉科学部准教授 | 生態学 | |
| 日野勝徳 | 大分生物談話会会長 | 両生類 | |
| 星野和夫 | うみたまご飼育部企画開発室リーダー | 魚類 | |
| 綿末しのぶ | 八坂かっぱクラブ実行委員長 | 環境教育 | |

(五十音順)

全10名